

道徳研修会

H29. 8. 25

8月25日（金）、講師に愛知学泉大学准教授の前田治先生を迎え、道徳の授業等についての研修会を行いました。

指導案や道徳の授業について、先生が今までされてきた実践や愛知学泉大学の生徒たちの様子を交えながらお話をしていただきました。そのお話の中で、今後、本校が道徳の研究を進めて行く上で大切にしていきたいポイントがたくさんありました。



1. 指導案について

- ・ どういう授業をしたいのか、何を子どもたちに伝えたいのかが見える案を。
- ・ 指導案は、自分のために、自分の授業のためにたてるもの。
- ・ 板書計画は必ず作る。ねらいや参観者が見るポイントも示す。
- ・ 授業者が責任をもって作り上げる。必ず授業後には反省をし、次につなげよう。

2. 道徳について

(1) 道徳とは

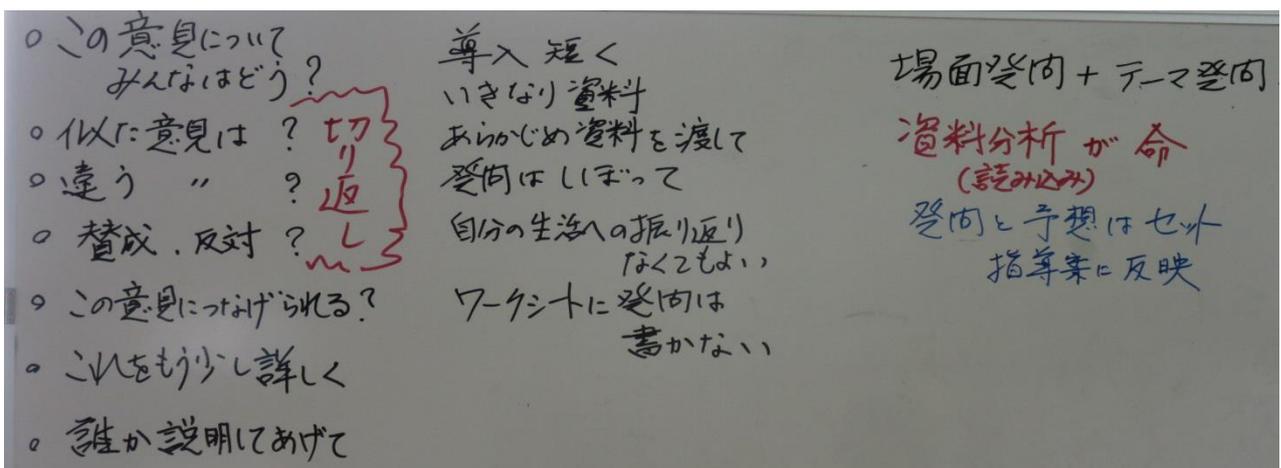
- ・ 心がゆさぶられる時間
- ・ たくさんの手法があるが、子どもたちが何で？と悩む時間
- ・ 意図的に組み立てて進めていく時間ではなく、子どもたちの考えや心の叫びを聞く時間
- ・ 子どもを理解する時間
- ・ 子どもの姿を見ようとする時間

(2) 授業について

- ・ 全教科の要（なぜ、内容項目がのっているのかを考えてみよう）必ずどんな場面にも、道徳がある。意識をしよう。
- ・ 1人の意見も大切にしたい。
- ・ 先生たちのやりたい価値で授業はすればよい。正解は何もない。授業後の反省は必要。
- ・ パターンにはめようとするとはころびが生まれる。
- ・ 資料を深く読む事が大事。
- ・ 授業の作り方

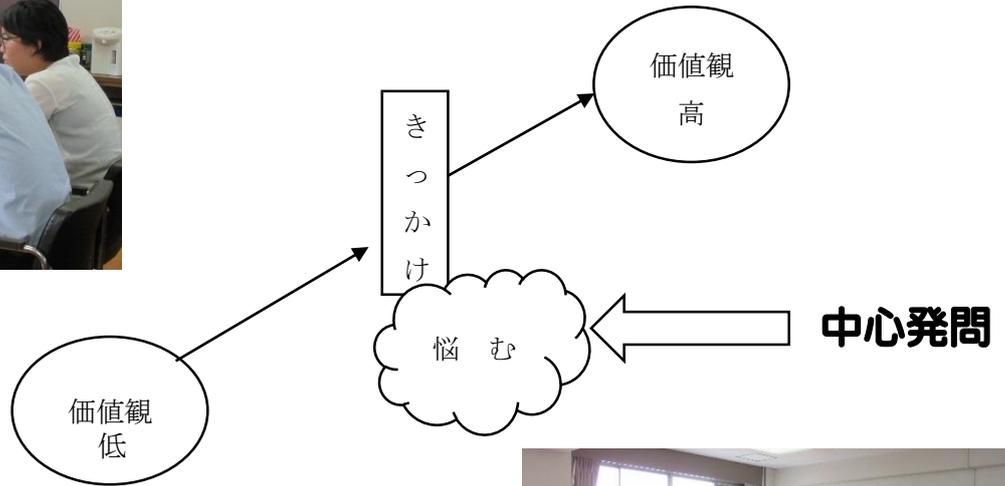
- ① 資料を読む（資料解釈をしっかりとする）
- ② 場面に区切る（4～5場面）
- ③ この授業で重要となる登場人物を追う
- ④ 中心発問を考える
- ⑤ 子どもの発言を予想する。→切り返し

※この言葉が出れば、話し合いは深まっていくと考える、キーワードを決める。授業の振り返りをするのにも有効。





- 基本的な道徳の授業のパターン



自己投影させる（登場人物の中で、一番言動に変化がある人を追い、その人になりきって考える）・・・自分事としてとらえられるため、本音を語らせるのに有効な方法。

(3) 評価について

- 目に見える行動の部分よりも、見えていない部分（心）の方がずっと大きく、その部分を道徳で扱っている。だから、難しい面も多い。見えないところを評価するのは難しい。
- 大きな木・・・根がしっかりとはいっていないと育たない。つまり、大きな木に育つためには根を育てることが大事→道徳でも、心の部分、見えない部分を育てる。
- 評価→児童のいつもの姿ではなく、そうではない姿が見えたら成長かもしれないと考え、記録する。
- いいところを見つけたら大きな○をつけてあげられるような加点方式で考えたい。

3. まとめ

- 子どもの心はそう簡単に分かるものではない。→これを意識して、道徳の授業をしなくてはならない。
- 様々な道徳の授業方法があるが、何が子どもたちに一番響くのかを考えてほしい。
- 先生たちが自分なりの授業を作ろう。子どもたちの心が揺さぶられたり、心がうごいたりする授業を。